

検査データの読み方

－臨床検査の総論的な読み方(その30)－

「臨床検査の総論的な読み方」について述べています。「検査データからの鑑別の挙げかた」として5段階の考え方を示し、これまでにアルブミン・尿素・クレアチニン・尿酸・血糖・HbA1c・アンモニア・ビリルビン・甲状腺ホルモン・CKとその他の心筋マーカー、「肝疾患に対する検査」を取り上げてきました。

3月からは「腎疾患に対する検査」について述べています。

今回は「腎臓のフィルター機能に関連する検査」のうち、血尿と円柱を取り上げます。前回述べた通り「腎臓のフィルター機能」とは一言で言えば「不要な物質を体外に排出すると同時に必要な物質を体内に留め置く」機能です。

血尿はフィルター機能の障害によって起こりますが、それ以外にも幾つかの原因があります。そこでいつもの5段階に当てはめて考えてみましょう。

摂取・吸収：大きな影響はありません

生合成：大きな影響はありません

体内分布：溶血により血中にヘモグロビンが溶出すると血尿の原因となります

消費：大きな影響はありません

排出：腎臓のフィルター機能の障害、尿路周囲や下部尿路からの出血など

これらは部位別に分ける事もできます。即ち腎の上流・腎・腎の下流の3つです。そして、部位によって血尿のメカニズムも定まってきます。

次に円柱について述べます。尿沈渣中に認められる円柱は、原尿中の蛋白が尿細管内で固まり、尿中に排泄されたものです。なので円柱を観察することにより、尿細管の状態を推測することができます。

まず、円柱そのものの数です。前述の如く円柱は原尿中の蛋白が固まったものですから、尿蛋白の量に応じて増加します。即ちネフローゼの際は非常に多く、次いで腎炎の際に増えます。次に円柱の種類です。円柱には硝子円柱、ろう様円柱、赤血球円柱、白血球円柱、顆粒円柱などがあり、大雑把に言えば円柱に取り込まれた内容物によって区別されます。従って赤血球円柱が見られる場合には尿細管レベルでの出血を疑い、白血球円柱や顆粒円柱が見られる場合には尿細管レベルでの感染(腎盂腎炎)を疑います。

内容に関するお問い合わせ・記事にして欲しい検査のご要望などはこちらへ

☎ 0263-32-8042 ✉ kensa@matsu-med.or.jp

